

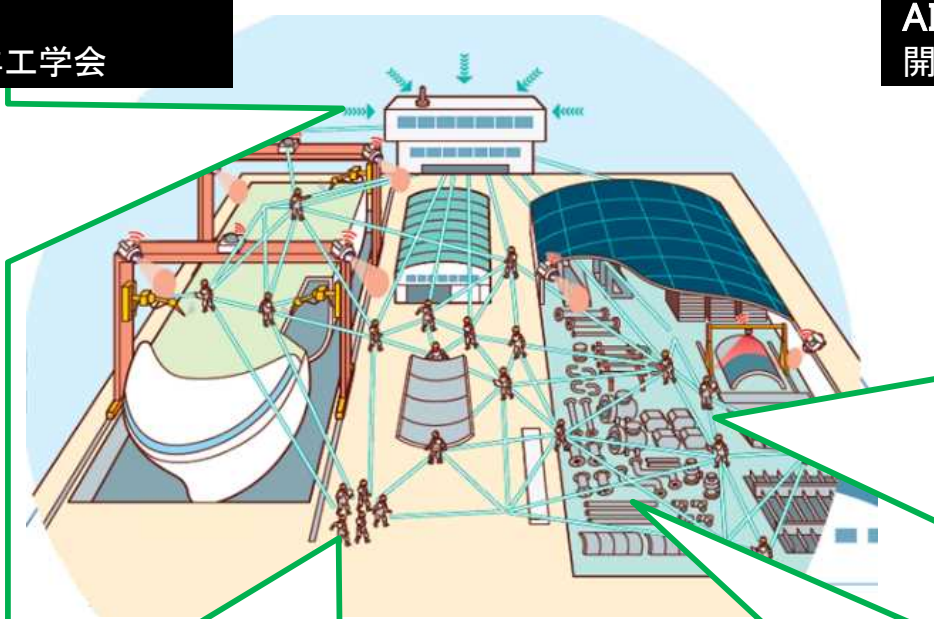
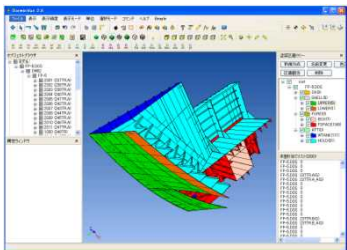
- 補助対象：IoT・AI等の革新的な技術を用いた、生産性向上に資する造船技術の研究開発(補助率:1/2以下)
- 事業予算：0.9億円(平成28年度2次補正)、7億円(平成29年度要求中)
- 採択案件：AI自動溶接ロボット、造船工程のヒト・モノの見える化、3次元設計情報共有基盤の研究開発等4件

採択した研究開発内容の概要

3次元設計情報共有基盤

開発実施者：(公社)日本船舶海洋工学会

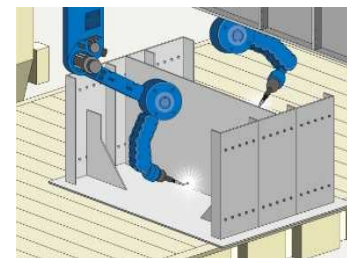
多様な設計ツールで作成される船舶の各部3D設計情報を統合し、塗装等の最適作業計画を作成するシステムにより、工程を効率化



AI機能による溶接ロボット4台連携システム

開発実施者：今治造船(株)

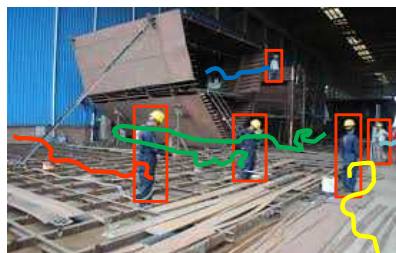
船体構造の膨大な平板部材の組立接合において、3D設計情報を基に、複数台で連携して作業手順や配分を判断しながら自動溶接をするロボットにより、溶接の生産性及び生産量を向上



造船工程でのヒトのモニタリング・管理技術

開発実施者：ジャパンマリユナイテッド(株)

IoTにより、作業員の動きを把握(ヒトの「見える化」)し、「無駄」や「無理」を排除。



造船現場でのモノの見える化による艤装工程効率化技術

開発実施者：三菱重工船舶海洋(株)

IT技術等を活用して最適な部材管理(モノの「見える化」)を行い、造船工程を効率化。

